

第3期第14回 帯広市産業振興会議 次第

日時：平成27年3月30日（月）17:00～

場所：帯広市役所 10階 第5B会議室

I. 開会

II. 報告

1. 帯広市産業振興ビジョンの改訂・公表について
2. 具体化に向けた工程表について

III. その他

IV. 閉会

配付資料	・資料1	帯広市産業振興ビジョン（平成27年3月改訂）
	・資料2	今後の取組に関する意見一覧
	・資料3	第13回帯広市産業振興会議 議事要旨

今後の取組に関する意見一覧

具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号
	事業主体	取組内容	委員意見		
経営基盤					
1 ● 創業・起業の促進を通して地域全体の活性化を促す	帯広商工会議所 (帯広市、金融機関、研究機関等)	創業・起業支援フェアに加えて、平成27年度より創業支援ネットワークの活用により、個別の創業案件について各関係機関が連携して支援を実施する。	・実際に起業を考えている人のニーズに合わせる必要がある。	P.54	1,6,7
2 ● 関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と発信の統一化	帯広市中小企業研修連携会議	HPに研修情報等を掲載するほか、平成27年度より各機関の研修の相互活用などの方策を検討する。	・情報、資金、物件、顧客獲得等の課題に対して支援機関のネットワークを活用することが必要。		
ものづくり・販路拡大					
● 支援制度の活用サポート					
13 支援制度等の情報とその活用方法をメール配信や情報誌等の手法を用いて、企業に提供する	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部、中小企業総合支援センター他)	情報発信等の一元化を図ることなど、企業へ必要な情報を届けるためのより効果的な手法について、関係機関が連携して検討する。	・創業後のフォローアップも必要。	P.58	28
14 企業支援のホームページは、デザインや機能を整理し、企業にとって見やすく情報を検索しやすいように工夫する			・創業の窓口や流れを整理することによって、フォーマットができるとう便利。		
経営基盤					
3 ● 商店街や個店等の活性化を促進する	帯広市 (帯広市商店街振興組合連合会)	商店街へが実施する、にぎわい創出や環境整備などの支援に加え、平成27年度より個店魅力の向上に資する研修を開催するほか、商店街への意向調査を実施し、補助制度の見直しを検討する。	・商店街の自主性を支援するような補助金があるといい。 ・商店街ごとに課題も異なるため、自由度の高い補助制度があると良い。	P.54	11
人材					
● U・Iターン者の確保					
4 U・Iターン経験者からの聞き取りによるニーズ調査	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部)	帯広市に転居してくる人に、アンケートを配布し、実態を把握する。 関係団体等と連携しながら把握できる範囲のU・Iターン者リストを作成し、聞き取りによるニーズ調査を実施する。	・ターゲットを絞るなど、情報発信の方法に工夫が必要。 ・情報を必要としている人に適切な情報を届ける仕組みが必要。	P.56	19
5 U・Iターン者へのフォローアップ		ニーズ調査を踏まえ、U・Iターン者にどのようなフォローアップが必要か、検討をすすめる。			
人材					
6 ホームページ、十勝以外に居住する十勝出身者のネットワーク等を活用し、十勝の魅力を発信	帯広市	U・Iターン者向けに、就業や働く人に視点を置いたホームページや情報冊子等を作成する。 首都圏での合同企業説明会を開催するほか、高校生の進学先への配布、東京帯広会等、十勝管外の十勝関係者のネットワーク等を活用し、ホームページや情報冊子等のツールを用いて、十勝の情報を発信する。	・十勝の生活や地域特色等、具体的な情報発信が必要。	P.56	19,20
ものづくり・販路拡大					
● 「つながり」を活かした情報発信力の強化					
27 地域の魅力ある企業の情報をデータベース化し、地域内外に発信する				P.56 P.58	20 29
産業基盤の強化					
● 情報発信の集約化					
31 ビジネスマッチングに特化した情報集約・発信。(インターネット等による域内企業の効果的な紹介等)				P.60	31

具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号
	事業主体	取組内容	委員意見		
人材					
● 地元企業の情報・魅力の発信					
7	出前講座、職業体験イベント、副読本等を利用した小中学生への情報発信	帯広市	おびひろキッズタウンの継続 小中学校向け、職業出前講座(職業紹介)の実施 出前講座を希望する企業を募集し、講座内容を一覧にして、各学校へ配布 地元企業に関心を持ってもらうような小中学生向け副読本の作成(平成28年度以降 内容、財源等要件等)	P.56	20
8	長所・短所に関わらず、企業側の正確な情報を発信	各企業	求職者が、その企業に就職したいと思うような情報の発信		
● 研修などの教育制度の充実					
9	一企業での研修は負担が大きいため、業界関係者が共同で行う研修制度の整備	①帯広市中小企業研修連携会議 (北海道中小企業団体中央会十勝支部) ②帯広市 (各企業)	① 各種研修制度の周知に加え、平成28年度より各業界の組合が行う研修制度の整備の支援する。 ② 早期離職対策として、7月頃に新人社員向けのフォローアップセミナーを開催し、安易な離職を防止する。	P.56	15
10	次世代リーダー育成のための継続的な研修の実施	①帯広商工会議所 ②フードバレーとから推進協議会 (個別事業者)	① 経営者研修に加え、平成28年度よりリーダー養成研修、事業継承研修等による、次世代のリーダー養成研修の開催。 ② 事業目的は平成26年度と同様。ただし、平成26年度はフードバレーとから推進協議会が中心となって開催してきたが、平成27年度以降は各事業者の自主性を生かした取組に移行する。		
● 社内での人材育成制度改革					
11	「人材育成工程表」の作成と、人材育成に係る社内での認識の共有化	各事業者 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とから支部)	事業者間同士の集会等において、先進的に取り組んでいる企業等から取組・効果等について紹介してもらうなど、人材育成の手法について普及・啓発を進める。	P.56	15
12	メンター制度への理解促進と導入の推進				

具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号	
	事業主体	取組内容	委員意見			
ものづくり・販路拡大						
● 支援制度の活用サポート						
15	支援制度の活用にあたっては、行政のノウハウを有効に活用し、エントリーしやすいようにする	帯広市 (中小企業総合支援センター、他支援機関)	行政をはじめ支援機関が、支援制度に関する情報提供や申請書の作成支援等を行い、サポートを行う。	・補助金ではなく、企業の優良な取組に対する報奨金を検討してはどうか。	P.58	28
● 企業同士の連携促進						
16	生産、加工、流通等、中小企業1社だけで取り組むことが難しいことを共同・連携して行うために、企業同士の接点を作る場を提供する	帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部 (各企業)	情報交換会、異業種交流、ビジネスマッチング等を通じて、企業間連携の機会を提供するほか、共同で情報発信を行う手法を検討する。		P.58	22,29
17	各企業が持つネットワークを可能なかぎり「見える化」し、有効に活用する					
22	● 「つながり」を活かした情報発信力の強化 「十勝を丸ごと売る」という考えのもと、各企業が持つネットワークを有効に使い、情報発信を行う					
18	5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)等、各企業において共通する取り組みで連携し生産性を上げる	帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部 (各業界団体)	事業者間同士の集会等において、先進的に取り組んでいる企業等から取組・効果等について紹介してもらうなど、普及・啓発を進める。		P.58	22
● 大学・試験研究機関との連携促進						
19	地域、企業の課題解決にマッチする帯広畜産大学の学部等の分析を行う	帯広市 (帯広畜産大学)	帯広畜産大学地域連携促進センターと協働でシーズ集の作成、更新スキームを確立し、シーズ集をHPIに掲載するなど誰もが閲覧できる環境を整備する。		P.58	27
20	とかち財団等の試験研究機関の役割・機能を整理し、企業の課題解決のために活用する	とかち財団 (帯広市)	食品加工技術センターや十勝産業振興センターの役割・機能をわかりやすく紹介する手法を確立するとともに、企業訪問等を通じて、それらの役割・機能の周知を図る。			
21	高等技術専門学院等において、地域で伸ばしたい産業についての教育プログラムの作成などを行い、実務的な人材教育を行う	帯広市 (関係機関)	高等技術専門学院のカリキュラムについては、同学院の運営協議会等を通じて、地域企業のニーズを伝えていく。 企業ニーズ等を踏まえて、必要と考えられる人材育成事		P.58	27
● 「つながり」を活かした情報発信力の強化						
23	企業⇒消費者⇒企業という情報の流れを活かすため、消費者を巻き込んだ取り組みを行う	帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部 (各企業)	消費者モニター等、「口コミ」を活かす取組を検討する。	・具体化を検討	P.58	29
24	インターネットを有効に活用し、十勝のことを全て調べられるようなホームページの開設や生産者、業界団体の共同展開等を行う	帯広市 (関係機関)	関係者間において、総合ホームページの開設を検討する。	・具体化を検討	P.58	29
25	販路拡大に向けて域外にある機関等を活用する	十勝海外展開連絡会議 ※事務局:帯広市	海外販路の拡大に向けては、JETRO等の公的機関をはじめ、金融機関との連携を強化する。	・具体化を検討	P.58	29
26	海外に向けた情報発信を強化するために、翻訳や通訳を担える人材を登用する					

具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号
	事業主体	取組内容	委員意見		
産業基盤の強化					
● 共同利用施設や物流システムのあり方の					
28	共同利用施設、物流システムの構築による効率化の研究・検討(十勝産食材の仕入れ先の確保等)	各事業者	各事業者がセミナーでの気付きを踏まえ、より効率的な物流システムの構築に取り組む。(必要に応じてフードバレーとから推進協議会がフォローアップ)	・共同利用施設については、とち財団の取組と合わせて進むと良いのではないかと。	P.60 31,36
29	交通ネットワーク等、企業立地環境の整備推進	帯広市 (関係機関)	工業系用地の必要性・あり方について今後検討予定。 引き続き、高規格幹線道路整備要望を実施。		P.60 37
30	設備投資促進のための財政支援の拡充	帯広市	既存企業の設備投資促進、域外企業の誘致につなげるための優遇制度について、企業ニーズの調査等を踏まえて検討する。		P.60 35
● 情報発信の集約化					
32	観光ポータルサイトの整備	帯広市	・ホームページやフェイスブックの更なる魅力向上について、各団体と協議していく。 ・十勝・帯広のアクティビティを集約した総合予約サイトの開設を検討している。	・他との差別化、どのように特徴を出すかが課題。 ・十勝で連携して取り組むことが必要。	P.62 40
33	● 再生可能エネルギーへの取組への抜本的検討	帯広市 (十勝19市町村、各事業者)	省庁・関連企業等から情報収集を行い、新たな事業やプレイヤーの発掘を行い、引き続き、再生可能エネルギーの活用促進に資する取組を進める。	・エネルギー産業の創出という観点も必要ではないかと。	P.60 37

具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号
	事業主体	取組内容	委員意見		
集客・交流					
● 地域の魅力向上					
34	体験⇒物販⇒飲食などのストーリー性や統一感のある観光地の形成を目指す	観光事業者 (帯広市、帯広観光コンベンション協会)	・農作物の栽培、収穫、食品加工体験、1次、2次製品の販売、飲食などをひとつの施設で提供している「オークビレッジ柏の葉」(千葉県柏市)や「くるるの杜」(北広島市)などを手本に、統一感ある観光地の形成を目指す。 ・ばん馬馬車を運行し、「とかちむら」とスイーツ店など中心市街地を結ぶことにより、新たなストーリー性の創出を検討している。	P.62	39
35	「とかち検定」の実務化や資格取得者の雇用及び利活用の促進による観光案内の充実を図る	帯広商工会議所 (帯広観光コンベンション協会、帯広市)	・「とかち検定」を観光実務で活用できるよう出題内容の改編や資格取得者の観光現場での利活用について検討をしていく。 ・地域ぐるみで観光振興を推進するうえで、市民一人ひとりが観光案内人であるという視点から、より多くの市民が「とかち検定」を受験・取得してもらえるようPRを促進していく。	P.62	43
36	「道の駅」の設置やインターチェンジの増設の要請などインフラ整備による観光客等の利便性の拡大について検討	帯広市 (関係機関、観光事業者)	・「道の駅」については、設置の必要性や既存施設の機能拡充による利活用について検討する。 ・インターチェンジの増設については、引き続き関係機関の要請活動と連携しながら、実現を目指す。	P.62	44
37	道東自動車道延伸に対応した事業展開及び他地域との連携を図る(沿線地域との情報共有や周遊ルートの造成連携など)	帯広市 (観光事業者)	・「おびひろ氷まつり」については、「さっぽろ雪まつり」及び「旭川冬まつり」と開催期間を合わせることで、三都市間の周遊を促進している。 ・今後は、日高地域や釧路市、網走市などの東北道地域との連携を強め、各都市の観光スポットを周遊するルートを造成について検討する。	P.62	39
38	「フードバレーとかち」の概念や基準をわかりやすく示し、飲食店やホテルなど民間企業が関わりやすい環境を整えることで、民間による「フードバレーとかち」の普及を促進する(ホテルや飲食店などで共通食材の提供など)	フードバレーとかち推進協議会 (関係機関)	引き続き、地域事業者に対してフードバレーとかちをわかりやすく説明する機会等を提供するとともに、フードバレーとかちの「見える化」に資する取組を進める。	P.62	39

	具体的な取組の方向性	今後の取組			ロードマップ 頁	展開事業 番号
		事業主体	取組内容	委員意見		
	● 地域の魅力発信					
39	外国人誘客の先進地域との連携や既存の情報発信媒体を活用したPR活動を図る	観光事業者 (帯広市)	・クラブメット サホロでは、明年7月3日～10月12日までの100日間、期間限定で夏季営業を始めることから、そこに滞在する外国人観光客に帯広市を周遊してもらえるよう、観光素材やルートの提案を検討したい。 ・札幌、旭川、函館などとの連携による外国人観光客の誘致事業を展開し、道内を周遊するツアーの造成を促進する。		P.62	39
40	専門家や発信力のある人などを対象とした効果的なPRイベントを実施する(飲食事業者を対象に有名なパン屋さんを講師とした講習会の実施など)	観光団体 (帯広観光コンベンション協会、帯広市、帯広商工会議所、観光事業者)	事業概要や実施後の事業展開について、関係団体との協議を行う。(実施時期、会場、講師及び受講対象者の選考、フォローアップ、成果測定等。)		P.62	45
41	ホテルや旅行会社等と連携したアンケートの実施、及び客観的データの共有を図り、それらを活用した情報発信を行う	帯広市 (観光事業者、帯広観光コンベンション協会)	関係団体において、アンケートの設問内容、データの収集方法と管理、データの活用方法等について、協議を行いたい。		P.62	50
42	地域住民に十勝・帯広が観光地であることを意識付けするため、フォーラム等を定期的に開催する(パネルトークや住民参加型のワークショップの開催など)	十勝観光連盟、帯広観光コンベンション協会	・十勝・帯広の観光地などを地域住民に伝え、理解を深めてもらうことを目的としたフォーラムの開催を検討する。 ・開催内容は、観光に携わる著名人による基調講演、地域観光事業者によるパネルトーク、十勝・帯広が観光地として躍進するためのヒントや課題をテーマとした住民参加型のワークショップ等を想定。		P.62	45,48
	● 満足度の提供					
43	農場とガーデンの連携など観光ルートへのストーリー性の付加、及び新たな周遊ルートの造成を促進する		具体的な取り組みは(34)、(37)、(44)、(45)のとおり		P.62	39
44	専門的な案内ができる農業ガイドを養成するなど、「十勝らしい」体験型観光の深化・醸成を図る	民間事業者 (帯広市)	ファームツーリズム推進事業として、モニターツアーによるニーズの検証や旅行会社に対するモデルツアーの助成を検討している。		P.62	42
45	「食」をメインとした観光振興に、知的観光資源やサイクリングなど他分野の観光資源を絡めた観光振興を推進する	観光団体 (帯広市、観光事業者)	サイクリングで十勝・帯広の食、知的観光資源、温泉などを巡るサイクルツーリズム推進事業として、サイクルコースの設定やレンタサイクル事業の強化など受入環境を整備するほか、サイクリングツアー受入やサイクリングイベントの誘致・支援について、検討している。		P.62	42
46	外国人観光客の「不安・不自由・不便」を軽減するため、観光案内や飲食メニューを外国語や写真で表示するなどインフォメーションサービスの向上を検討する	帯広市	外国人観光客へのインフォメーションサービスを向上させるため、観光案内や飲食店への各種情報提供を充実させていく。	・観光客に満足していただけるかどうかポイント。 ・外国人観光客等に対して、日本、北海道のマナーを発信することも大事ではないか。	P.62	48
47	バス・タクシーなどの二次交通を利用する観光客に対する情報提供の充実を図る	十勝圏二次交通活性化推進協議会 (帯広市)	十勝圏二次交通活性化推進協議会と連携するとともに、各種広報媒体を活用した周知を強化する。		P.62	52